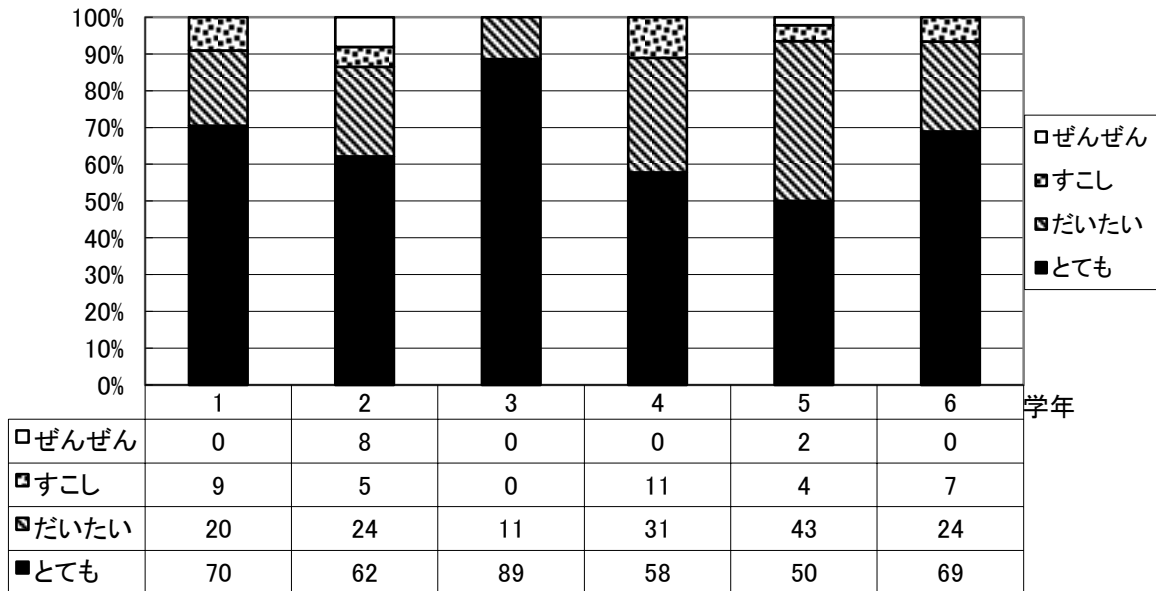


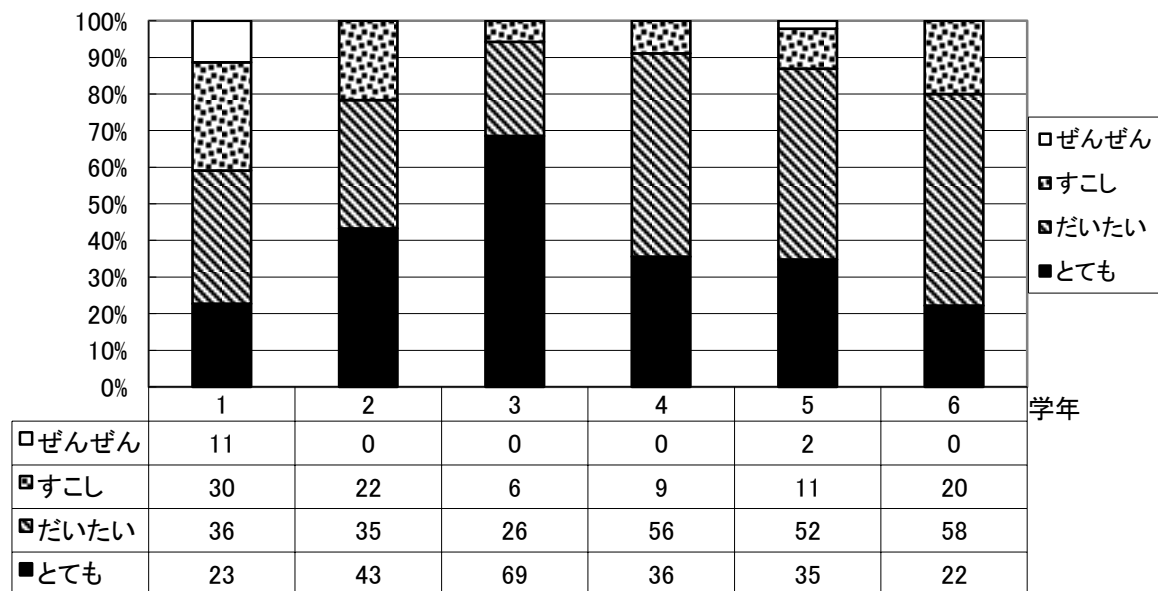
グラフの見方

グラフの割合は図10以外はすべて学年の割合(%)になっています。軸項目の「とても」は、程度が高いこと、「だいたい」はまずまずの程度であること、「すこし」は程度が低いこと、「ぜんぜん」はまったくそのようでないことを表わします。また、横軸の数字は学年を表しています。表の中の数字の単位は、「%」である。各学年ともに、全体に占める1人当たりの割合が2~3%となっています。また、小数点以下は切り捨てとなっているので、各質問項目で合計100%となっていない学年もあります。

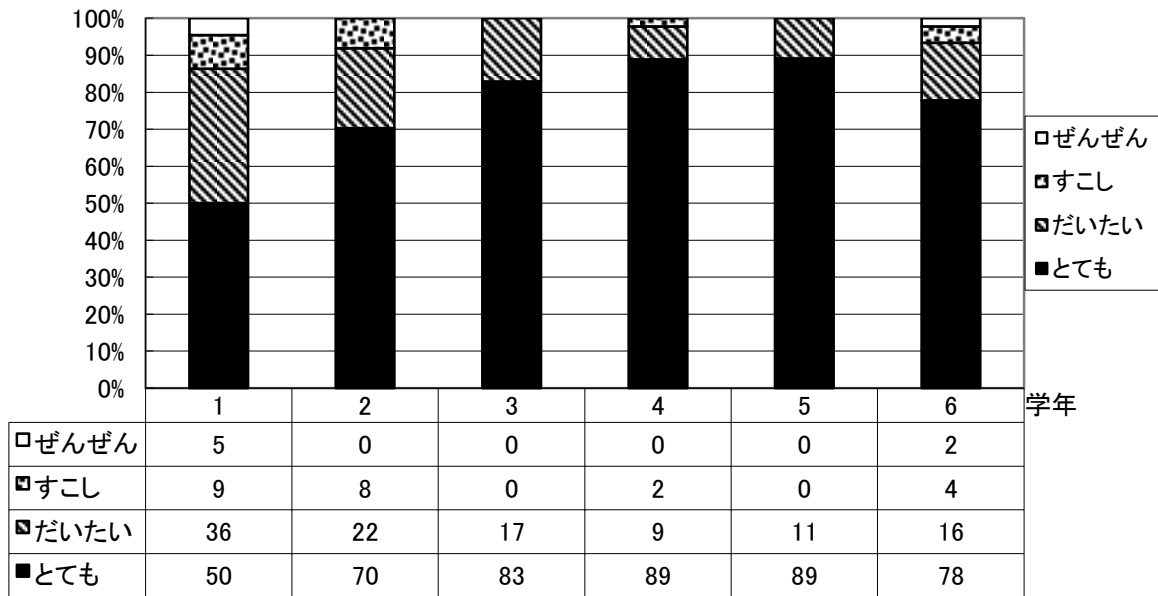
1 学校は楽しいですか



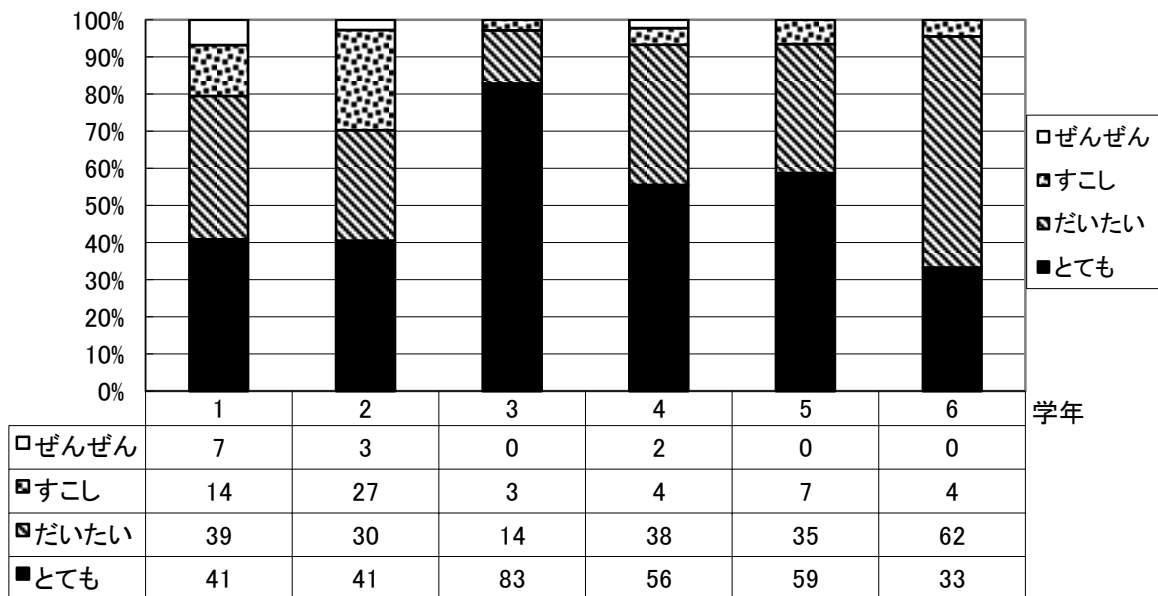
2 授業中、友だちの話をよく聞いて、自分の考えを伝えていますか



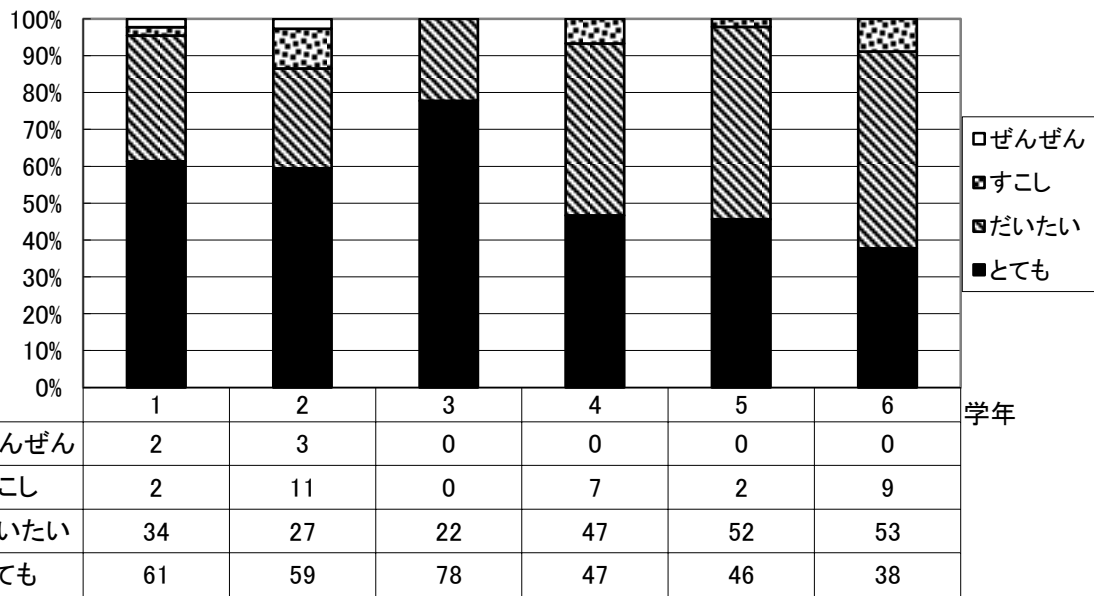
3 学校で一緒に遊んだり、おしゃべりをしたりする友だちはいますか



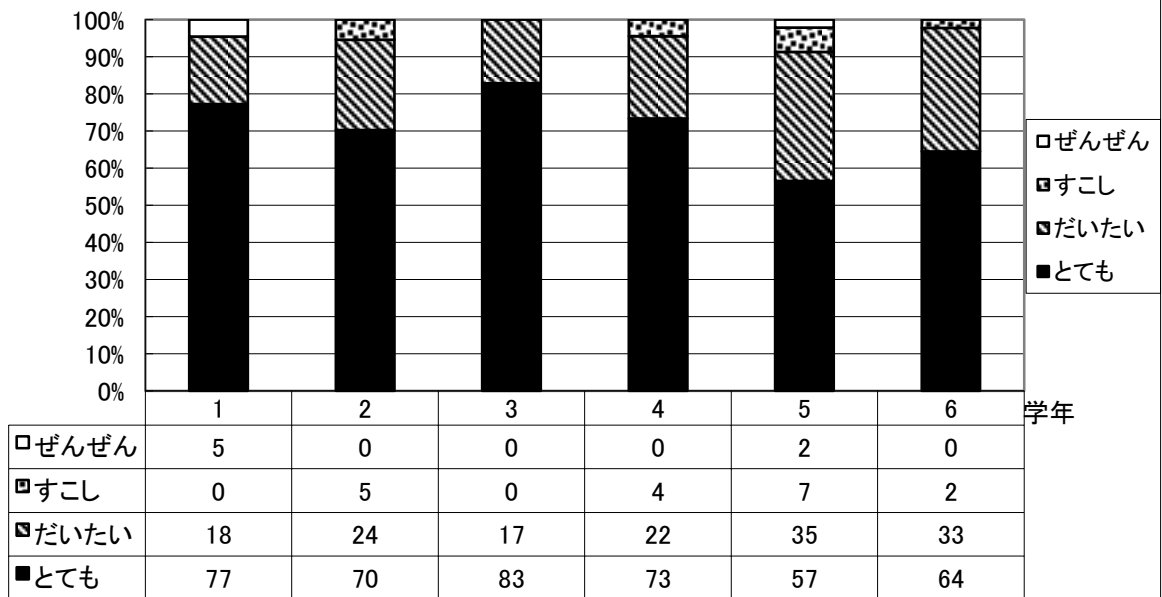
4 元気よくあいさつができますか



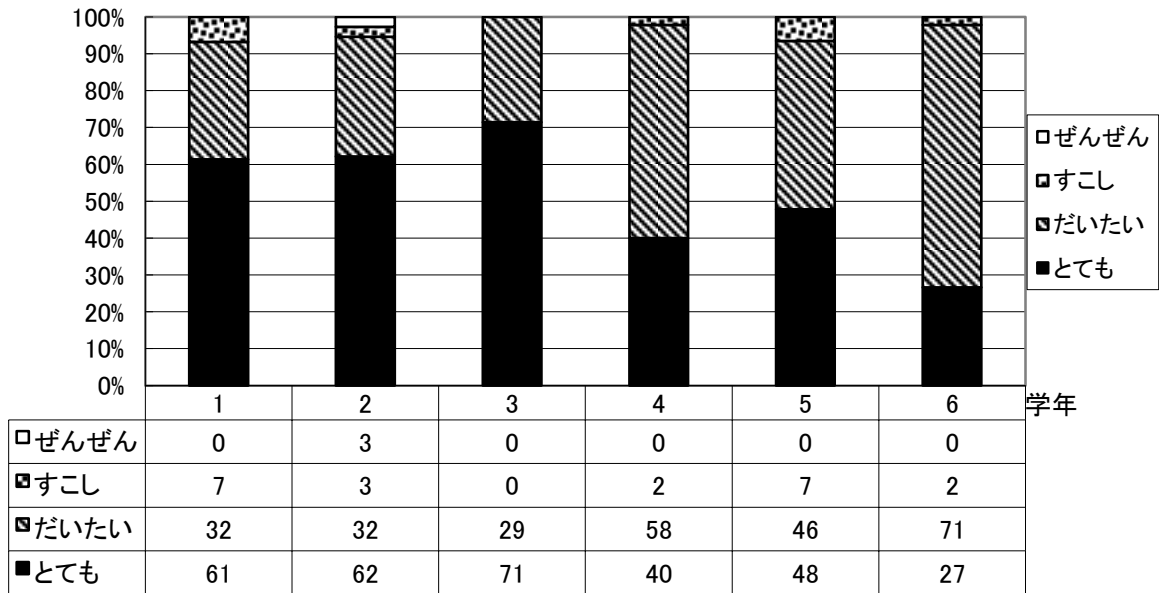
5 先生や友達の話をしっかり聞けますか



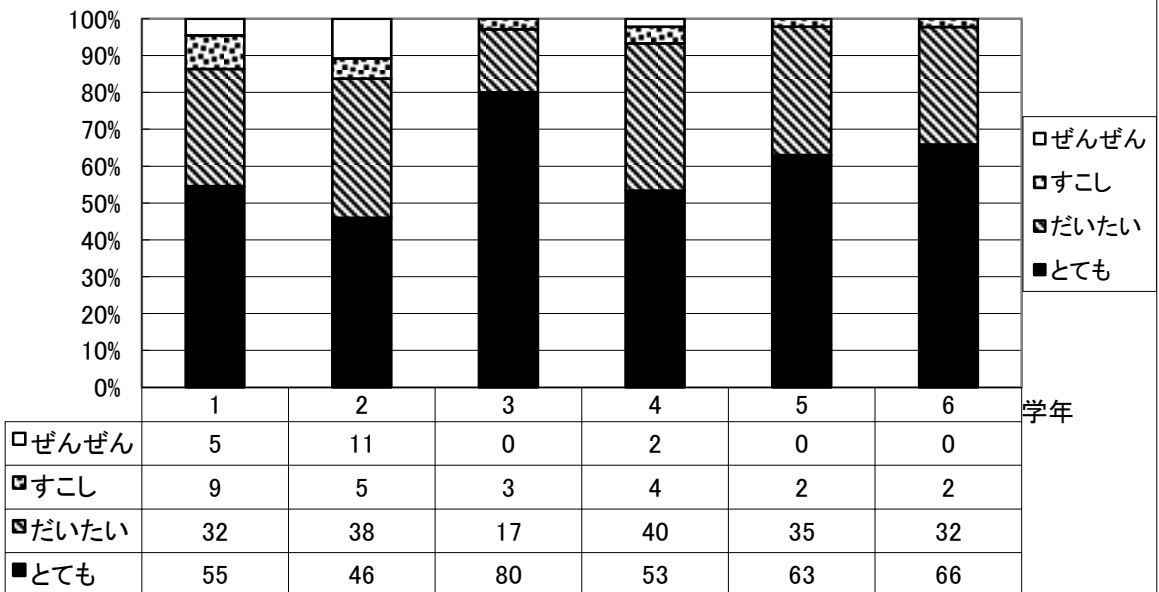
6 そうじ当番がしっかりできますか



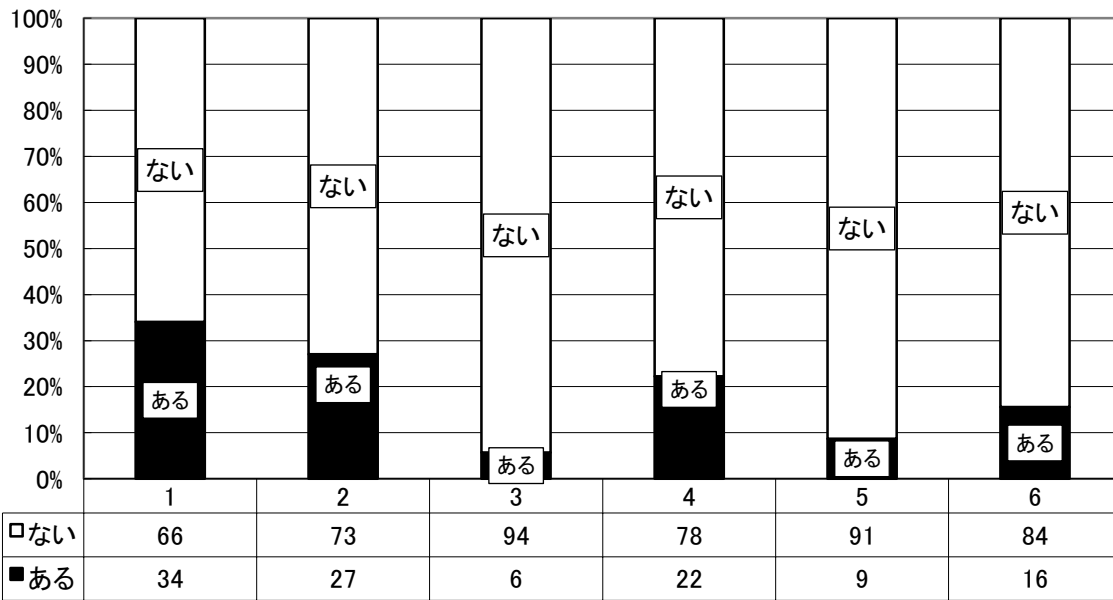
7 学校の約束や決まりを守っていますか



8 授業はよくわかりますか

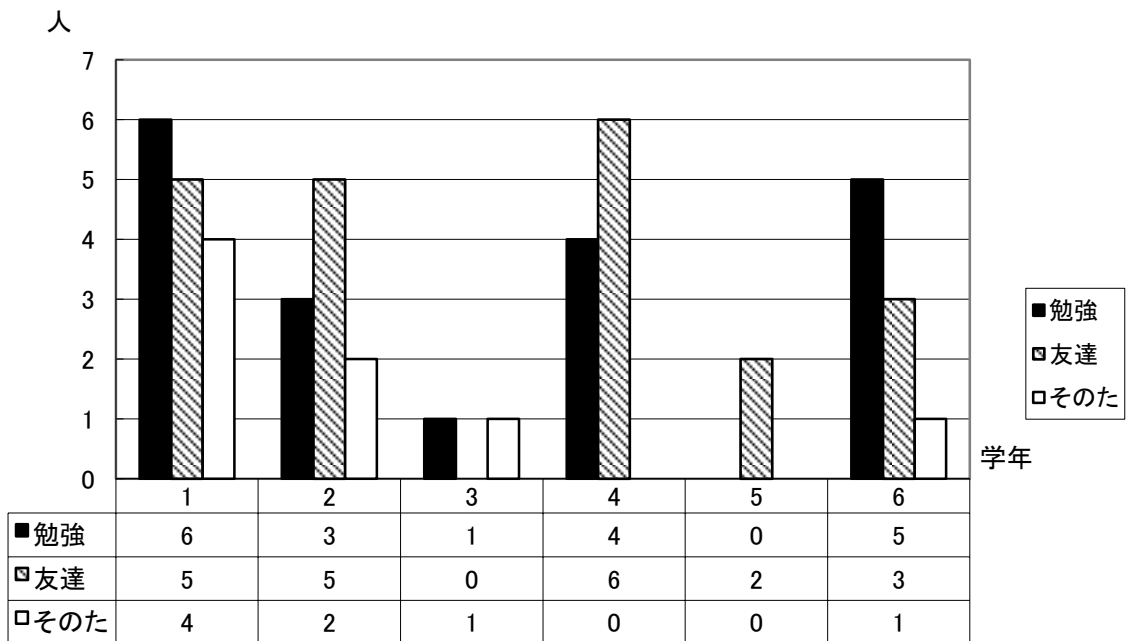


9 学校生活でこまっていることがありますか



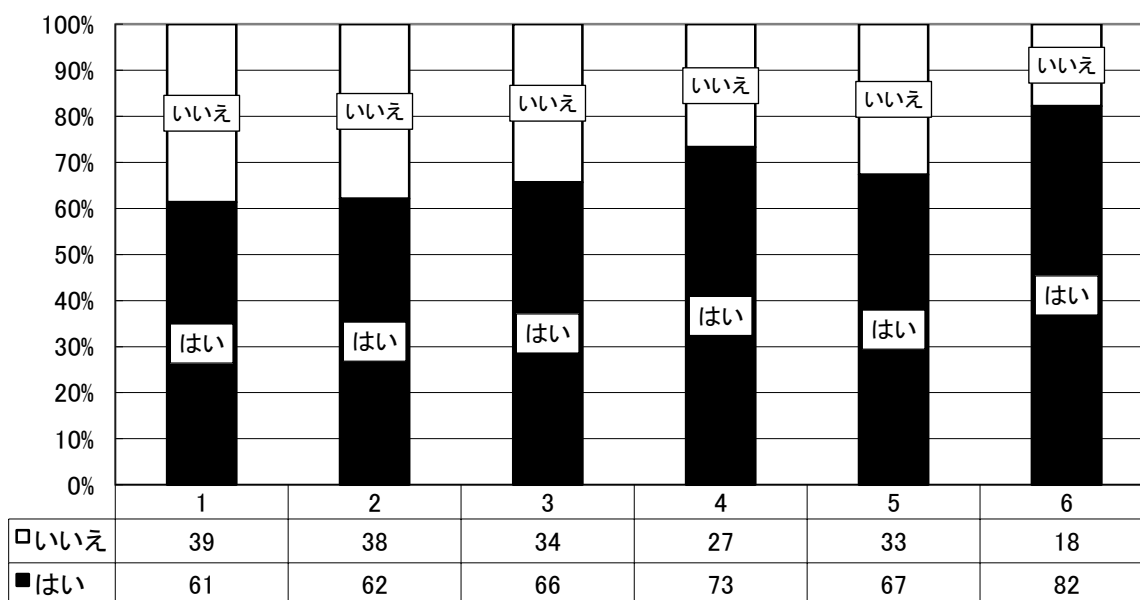
学年

10 どんなことで困っていますか



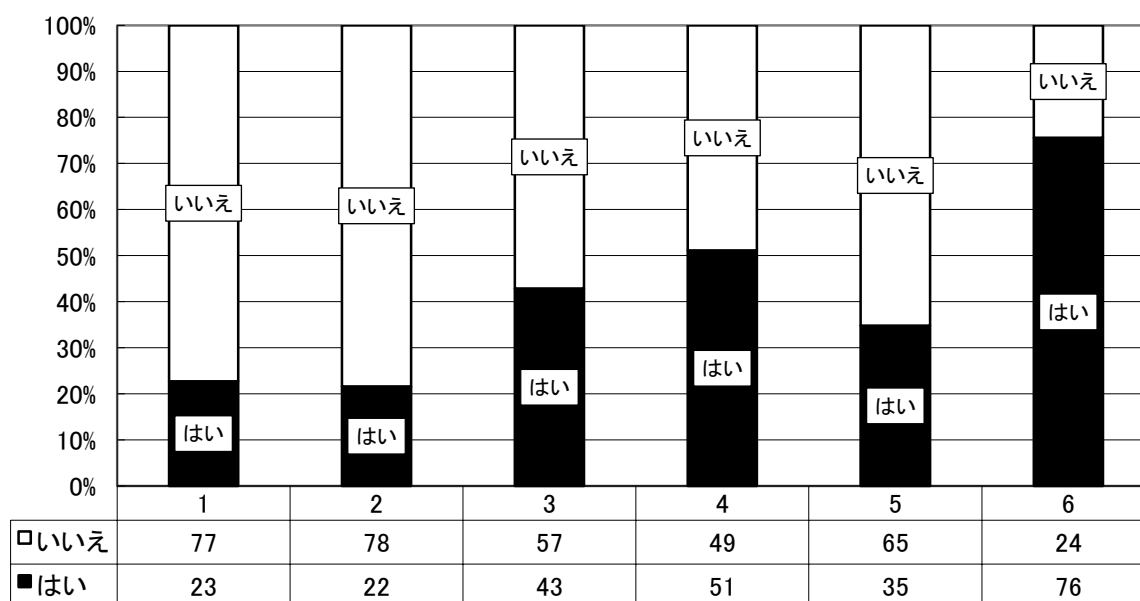
学年

11 あなたは自分の携帯ゲーム機・携帯音楽プレーヤーを持っていますか



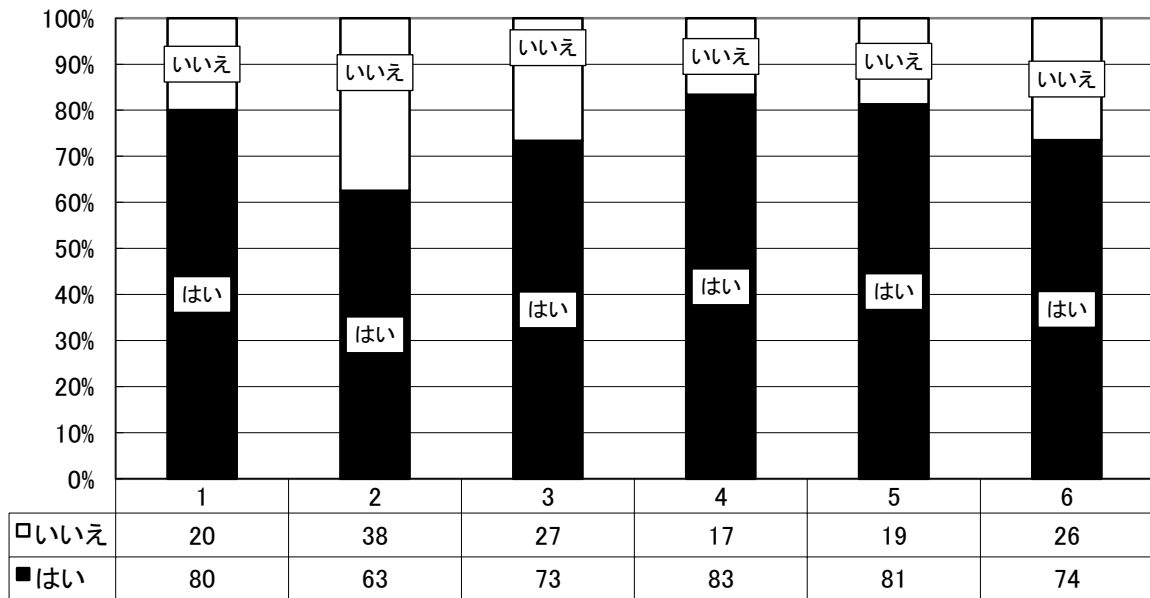
学年

12 あなたは自分の携帯電話・スマートフォンを持っていますか



学年

13 あなたのお家では、家庭内で携帯電話・スマートフォンを使う時のルールがありますか



学年

【アンケート結果の分析】

「とても」「だいたい」を肯定的な評価とし、肯定的な評価が全校平均9割をこえているのは次の項目です。

- 「1 学校生活が楽しいですか」(←92%)
- 「3 学校で一緒に遊んだりおしゃべりをしたりする友だちはいますか」(←95%)
- 「5 先生や友達の話最後まで聞くことができますか」(←94%)
- 「6 そうじ当番をしっかりとやっていますか」(←96%)
- 「7 学校の約束や決まりを守っていますか」(←96%)
- 「8 授業はよくわかりますか」(←92%)

一方、次の項目については、肯定的な評価(全校平均)が前述の項目よりも低く、児童自身が課題があると感じている項目と捉えることができます。

- 「2 授業中、友だちの話をよく聞いて、自分の考えを伝えていますか」(←81%)
- 「4 元気よくあいさつができますか」(←88%)

児童に対するアンケート結果から見ると、どの項目も肯定的な評価が多く(全校平均80%以上)、多くの児童が「楽しい学校生活」を送っていると言えます。これは、「飯野プリンシプル(言語環境・教室環境・時間)」を意識した先生方一人一人の指導(チームとしての指導)の成果です。また、「はさみウォーク」「あいさつタッチ」「全力そうじ」「ひかりBOX(友だちのよさを紹介)」など、児童会で進めている取り組みの成果も、今回の評価に表れていると思います。今年度は管理職を含め教職員の入れ替わりが多く、学級担任が変わったクラスもたくさんありました。そんな状況の中でも、今回、肯定的な評価が多かったのは、児童も含めた「みんな」で学校をよくしていこうという意識が高かったからだと思います。(教師が変わっても、基本的な指導は変わらないことが大切です。)

【今後の指導について】

アンケート結果から、今後の課題点としては、①学習意欲(授業参加意欲)の向上・②あいさつの活発化の2点が挙げられます。

①の課題については、新たな取り組みを進めるよりも、現在行われている学習指導を工夫したり授業を改善したりすることによって児童の意欲を高めていくべきです。児童が身につける学力には、「できる学力(知識・技能)」と「わかる学力(既習や経験, 学んだ知識や技能を活用する力=思考力・判断力・表現力)」の2つがあります。両方の学力を高めていくことが、①の課題を克服することにつながるはずですが、基礎・基本のさらなる定着を目指す反復学習や全員参加型の話し合い活動など、取り組む方法も多様ですが、そのための一つの方法として、各教科の学習において、解が一つではない「非定型問題」に取り組む学習方法(協同的探究学習)も考えられます。(単元のどこかの場面で)協同的探究学習に取り組むことによって、「わかる学力」が高まり、自己肯定感や教科に対する関心が向上するという成果も見られているようです。

②の課題については、児童会の取り組みだけに頼らず、教師側からも積極的なあいさつを児童にしていくべきです。また、校内だけでなく、登下校中など校外でも、児童が積極的にあいさつをしようとする意識を高めます。さらに、②の課題は①の課題とも重なる点がある(聞いたり話したりすること)ので、あいさつも含め、相手の気持ちや思いを受け止める・自分の考えを確実に伝えるなど、ふだんから丁寧な指導を心がけていきましょう。特に、児童をほめたり、叱ったり(「怒る」ではなく)する場面では、“YOUメッセージ”だけでなく“Iメッセージ”でも伝えていくことを意識しましょう。

肯定的な評価が多い一方で、少数ではありますが、否定的な評価もあります。集団生活を大切にして、教師の指示や願いを素直に聴いてくれる児童が多い飯野小ではありますが、中には、なかなか教師の指示に従えなかったり反発してしまったりする児童の姿も見られます。そのような児童たちの考えや思いが、否定的・消極的な評価につながっているのではないかと考えられます。当然、このような児童は自己肯定感・自己有用感ももてないはずですが、これらの否定的・消極的な評価を肯定的・積極的な評価にかえていくことが、児童・保護者からの信頼がさらに高まっていくことにつながると考えられます。具体的には、集団としてのルールやマナーを守れない児童や教師の指示に反発している児童に対して、多くの教師が積極的に関わり、ともに学ぶ・ともに生活する集団をつくる意識をさらに高めていきたいです。反発しているとしたら、教師や学校への満たされない思いがあるはずです。そこをくみ取っていくこと、児童への接し方を変えていくことで、みんなが気持ちよく過ごすためのルールやマナーを大切にしていく心を育てていきたいです。(罪を憎んで人を憎まずという考えで指導していきましょう。)そのことが自己肯定感・自己有用感を高めていくことにもつながるはずですが、そのためには、各教師の連携を密にして、指導方針の確認や指導内容の共有化などをはかっていくことが大切です。

携帯ゲーム機や携帯電話(スマホ)等の所有については、年々、所有率が高くなってきています。携帯ゲーム機の所有率は約70%であり、携帯電話の所有率も40%をこえています。ゲーム機や携帯電話の使用については、基本的には家庭(保護者)の指導が中心だと考えていますが、県PTAで出されたガイドラインに基づき、各家庭でルールを決めて適切に使用するよう家庭への周知を高めていきましょう。